

日産 OBD II 対応車の車載故障診断装置の使用法

診断モードには、モード1とモード2の2種類がある。モード1は通常の状態であり、モード2は自己診断モード又は O₂ センサ・モニタ機能である。

〈自己診断モード操作要領〉

自己診断モード起動方法、O₂ センサ・モニタ及び自己診断結果の消去方法は次の要領で行う。

<<注意>>

スロットル・センサ系に故障が起きている場合は自己診断の起動ができないので、外部診断器を使って自己診断を行い不具合箇所を修復すること。

〔モード2(自己診断)起動方法〕

- ①アクセル全閉のままキーSW を ON にする。
- ②キーSW(スイッチ)ON 後3秒経過してから、直ちにアクセル全開、全閉を5秒以内に素早く5回繰り返す。

(アクセル全閉で終わる)

- ③アクセル全閉から約7秒後にアクセルを全開にし、約 10 秒間(エンジン警告灯の点滅が始まるまで)その状態を保持する。→自己診断開始

- ④アクセルを戻し、自己診断を実行する。

・キーSW ON のまま自己診断を行う。〔モード2の自己診断〕

・自己診断の状態からエンジンを始動させると O₂ センサ・モニタに移行する。〔モード2の O₂ センサ・モニタ〕

・キーSW OFF にすると自動的にモード1に戻る。〔通常の状態〕

<<注意>>

・時間のカウントは時計などを用いて正確に行うこと。

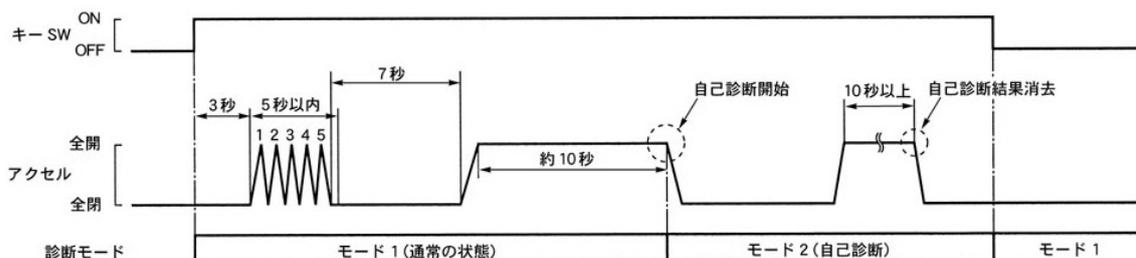
・モード2にならない場合は、キーSW を約 10 秒以上 OFF にしてから再度試みること。

〔自己診断結果の消去方法〕

モード2(自己診断)の状態でアクセルを全開にし、その状態を 10 秒以上保持する。→自己診断結果消去

・アクセルを戻し、自己診断結果が消去されたことを確認する。

・キーSW を OFF にするとモード1に戻る。



自己診断モード操作要領

①モード1ーバルブ点検

キーSW ON(エンジン非回転)時, エンジン警告灯が点灯し, エンジン始動後は消灯する。



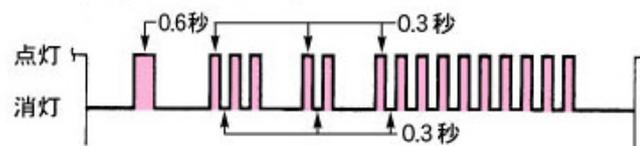
②モード1ー故障警報

- ・自己診断異常検出時は故障警報モードとなり, コンビネーション・メータ内のエンジン警告灯を点灯させてドライバへ警報する。
- ・エンジン警告灯の表示には, 1トリップで点灯する項目と2トリップで点灯する項目があり, 2トリップで点灯する項目は1トリップ目では点灯しない。

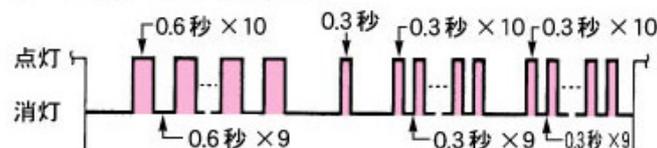
③モード2ー自己診断結果

- ・このモードは, エンジン警告灯の点滅(コード番号を表示)で異常系統を表示する。
- ・異常なしの場合はコード番号“0000”を表示する。

コード番号“1320”の表示例



コード番号“0100”の表示例



④モード2ーO₂ センサ・モニタ

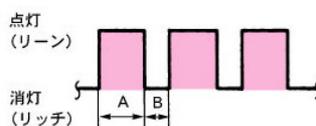
- ・このモードは, エンジン警告灯の点滅で空燃比の状態を表示する。
- ・暖機後エンジン回転速度を約 2000r/min 一定にしたとき, 10 秒間に5回以上エンジン警告灯が点滅するか点検する。

参考 アイドル時も空燃比フィードバック制御をしているがエンジン回転速度を上げて点検する。

- ・空燃比フィードバック制御中

O₂ センサ出力が大(リッチ)のとき : 消灯 O₂ センサ出力が小(リーン)のとき : 点灯

- ・空燃比フィードバック制御停止時 : 消灯・空燃比フィードバック制御がクランプのとき:クランプ直の状態を保持



1サイクルのデューティ比 $\left\{ \begin{array}{l} \text{リーン: } A / (A+B) \times 100 \\ \text{リッチ: } B / (A+B) \times 100 \end{array} \right.$